

No5 算数・数学・計算が苦手な子への支援の在り方

学習障害（LD）の中でも、特に計算につまずきがある場合、下記のような学習困難が予想されますので適切な支援が必要となります。

(1) 繰り上がり，繰り下がりのある筆算が苦手

- ・短期記憶が弱く，計算途中の繰り上がった数や繰り下がった数を覚えていることが苦手
- ・視覚認知が弱いため，桁を揃えて書くことが出来ない
- ・数を書く位置が分からない等

- ・大きめのマス目や枠のある用紙を使い，問題を写したり，計算したりするときの位取りを分かり易くする。
- ・繰り上がった数，繰り下がった数を書く場所をはっきりさせて，必ずそこに書くように習慣付ける。
- ・1枚のプリントの計算問題を少なくする。
- ・タイルやおはじき，数図カードなどを使って，頭の中で数や計算がイメージできるようにしていく。

(2) かけ算九九が覚えられない

- ・暗記することが苦手
- ・覚えることに意欲を示さない
- ・算数の勉強と聞いただけで嫌がってしまう等

- ・耳で聞いて覚えるのが得意な子と，書いて覚えるのが得意な子がいます。「ドラえもん九九の歌」のような九九の歌を毎日みんなで歌ったり，答えをはめ込んでいくようなパズルを使ったりして楽しく九九に取り組めるような場面をつくってみる。
- ・どうしても苦手な子は，いつも九九表を手元において問題に取り組むなど，出来ないことを責めるより，出来ることを増やしていくようにする。

(3) 文章題が苦手でなかなか取り組めない

- ・文章を読むことに困難がある
- ・問われている内容が分からないので，何算を使ったらよいか分からない等

- ・教師や友達が，声に出して問題を読んで聞かせる。「目で読むこと」が弱い子は，聞くことで，問題を理解する子も多い。
- ・具体物や図で見分けるように示したり，「増える」は+，「いくつ分」は×，「減る」「あげる」は- など，キーワードを決めておき，問題文のキーワードを探す習慣をつけたりしてみる。

(4) 中学生で数学が苦手な子への支援

- ・計算が遅くて不得意，みんなと同じ速さで出来ないので投げ出してしまふ。
- ・飽きっぽく集中できない等

- ・場合によっては，電卓などの使い方を教えることも必要。
- ・四則計算の定着度合いを確かめてみることが必要。つまずいたところに戻り，少しの努力でできる個別の課題を序々に取り入れることも考えてみる。（保護者とも話し合いながら）
- ・課題が多い場合は，小さなまとまりに分けて与えるようにする。

<指導のポイント>

- ・自分なりの方法（指を使うなど）をとがめたりして，計算への意欲がそがれないようにすることが大切です。
- ・筆算の桁がちょっとずれていたり，わずかな計算ミスで間違ふことも多いので，確かめる手段やチェック欄などを作ってあげ，確実に自信をつけられる方法を工夫してみましよう。

